
神山 備の取扱説明書

神山 備

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神山 備の取扱説明書

【Nコード】

N9245X

【作者名】

神山 備

【あらすじ】

某所で綴っていた「こうやまたすくの作り方」を含めて、つらつらと私自身の執筆その他のアホなまでの拘りだとかを書いていきます。

現在、移行中でサイトと、もう一箇所掲載されております。そのうち、オリジナルも登場する予定です。

たすくの脳内はいつもアフレコ状態

皆さんがどんな書き方をされているのかは分かりませんが、私の場合はまずキャラクターを設定します。

年齢・体格・容姿・環境…それらのものを設定したら、舞台を用意し、キャラクターをそこに放置します。

そしてその“役者”が動くのを実況するという手法で書いているんです。

この際に重要なのはキャラの声。

アニオタたすくの頭の中にはとんでもない数の声優様の声がインプットされており、そのときのキャラに応じてそのキャラの声として聞こえてくるんです。

ちなみに「切り取られた青空」の板倉加奈子は川澄綾子さん（のだめカンタービレの野田恵）綿貫亮平は小西克幸さん（スキップビートの敦賀蓮）とかいう具合に…ブログの方では「青空」の全出演者の声を書いて失笑を買いました。

実は、これを某所で書いたときにはこれ以上のお名前を出さなかったんですが、後日書いていた全作品の主要キャラを大公開。

それがコレです。

完全に一部の人にしかウケないネタだと思えますが……

全て敬称を省かせていただきました。予めお詫び申し上げます。

まず、「切り取られた青空」(いと含む)から……
これはすべてのキャラに声優さんが付いているので、全部出せます。

板倉加奈子・川澄綾子

板倉修司・森久保祥太郎

板倉陸・川上とも子

板倉瞳・折笠富美子

綿貫亮平・小西克幸

設楽香織・皆口裕子

設楽詩織・篠原恵美

Tomさん・鳥海浩輔

うららさん・皆川純子

(堀木)俊樹・三木眞一郎

「遠い旋律」

三輪さくら・久川綾

坪内高広・山口勝平

松野芳治・小西克幸

(野江恵実・リア友)

「満月に焦がれて」

木村洋介・置鮎龍太郎

木村小百合・

桜木弘毅・関俊彦

桜木圭子・冬馬由美

木村乃笑留・井上麻里奈

桜木周人・中村悠一

「パラレル」

倉本（飯塚）夏海・チエ・ジウ

結城龍太郎・保志総一郎

武田康文・佐々木望

（中谷小夜子・リア友）

飯塚雅彦・石塚英彦

結城志穂・中原麻衣

「ハムケくオジツ ハムケ イツソ」

配役なし

「my precious」「precious dream」)

「パラレル」のメンバーは割愛)

梁原健史・小野大輔

結城総一郎・堀内賢雄

妙子・（声は確かに聞こえてるんですが、どなたかお名前分ならず）

「Future」（これも前作のメンバーは割愛）

飯塚未来・渡辺美佐

飯塚明日香・ペ・ドウナ

結城秀一郎・各父親と同じ声で

ジエラール・大塚明夫

「赤い涙」

根本昴・田中真弓

笹川樹・日高のり子

笹川京介・寺田農

安田一成・神奈延年

「交響楽」「ボクのプレシヤスブルー」（「遠い旋律」メンバーは

割愛)

笹本(坪内)久美子・三石琴乃

笹本智也・櫻井孝宏

笹本純輝・山口勝平

松野治人・小林由美子

松野楓・釘宮理恵

「バニシング・ポイント」

寺内衛・安元洋貴

名村博美・根谷美智子

名村順子・大原さやか

曳津信輔・遊佐浩二

北村冴子・キョン・ミリ

「道の先には……」

宮本美久・宮田幸季

鮎川幸太郎・置鮎龍太郎

マシュー・カール・杉田智和

(エリーサ・C・L・ガツシュタルト)・水樹奈々

谷山薫・森永理加

櫛原武・古屋徹

月島更紗・藩恵子

皆様のイメージを崩す配役だったらごめんなさい。しかし、書きながら自分で呆けるほど、すごい人数の声優さんが出てきて自分で笑ってしまいました。

この一年で劇的に変わったこと - 執筆スタイル

私の書き方がここ一年前からがらっと変わりました。

それは、ダイレクトアタックを止めたこと。

一年前に「ポメラ」を買うまでの私は、ダイレクトアタック・ブログやポータルサイトに直接入力していました。

なぜかと言うと、長時間筆記用具を持ちたくないからです。たすくは左利きを子供の頃に矯正され、右手で筆記用具を持ちます。でも、んな右手はすぐに疲れて攣ってくるんです。

ただ、パソコンのキーボードも、右を多用するようにできていると言えばそうなんですが、疲労度は手書きの比ではありません。

一応、不特定多数の方に見ただくのだし……ワードで下原なんてことも考えましたが、結局Webで載せるときに絶対に変わるの
で、結局一緒じゃないかと思ってたんです。

最近はこちらが初稿（サイトは同時進行です）というものも増えましたが、大体は別ポータルからの移行トランス

たかが、ブログ（当時）やポータルからここに移動させるだけの作業なのに、原稿が伸びる伸びる……まるでトルコアイスのごとくに伸びるんです。

（コピペを使えばいいのに、パソコン頭の私は、それを習得するのにかなり時間を食ってしまいました）

ただ、それをする、結局一から打つので誤植が山と積まれることになったりします。

某所では、ある作品に「折角素晴らしいのに勿体ないから」と、あまたの誤植を一覧表でいただきました。

現在はポメラで執筆。これは、パソほどかさばらないので、電車で実家を往復するときにと買いました。最近では、仕事の休憩時間にも打っていますが。こちらにはマイクロSDカードでコピペしています。その際に、誤植と文字と表現ブレをチェックしつつUPします。

ただ、サブタイトルはこの場でつけます。理由はポメラちゃんが入力順にかかわらず、五十音順でソートして記事を並べてしまうからです。タイトル+サブタイトルでも良いんですが、長いタイトルだと字数オーバーになりそうで、タイトル+通し番号で入れているんです。

そのサブタイをつけ忘れて、投稿ボタンを押すこと数知れず……原稿は全部消えちゃいますよね。一応またポメラちゃんから呼び出せば済むことなんです、修正箇所が多いときにわりとやっちゃんですよ。

「ああ、またこんだけ手直しせにや……」
と思うと正直凹んでしまいます。

それでも、誤植は続くよどこまでも……っていう、粗忽者なんです、ポメラ後の作品をそろそろ見直したいなあとは思ってはいるのですが。

それをする、また、トルコアイス捏ねちゃうかなあと思う、今日この頃です。

サブーイタイトルもあつたりしますが……

皆さん、連載作品にサブタイトルはおつけでしょうか。

再開第一作、「切り取られた青空」をブログで書いていた時、ご丁寧にも全部一話ずつサブタイトルを頑張つてつけたんですよ。全31話全て……

そしたら、面倒臭くなつて、「切り取られた青空 - いと -」「遠い旋律」「満月に焦がれて」は最初サブタイなしで書いていました。

しかし、ポータルにトランスするとき、字数制限が厳しいかつたり、ここはサブタイトルがないと入力できませんし。で、「遠い旋律」は数字を入れてみたくんです。でも、数字は味気ないなど。

そついうわけで、「いと」からはトランスしがたらサブタイトルを冠し、「満月に焦がれて」「遠い旋律」も後日サブタイトルを付けました。

「パラレル」では長い話なんで、対タイトルなんてものまで作つて遊んでしまいました。

例えば、

「R」からの解放 「R」への回帰・同じではない未来 同じではなかった未来・愛してる？ それでも…愛してる等。

でも、このサブタイトルが曲者で、ネタバレしないように、でも内容を醸し出す様について考えると名前以上に難しい。

「交響楽」「赤ちゃんパニック」など、最初サブタイトルが中々決

まらず、とりあえず数字で揚げたものもありましたが、「赤ちゃんパニック」の時にびっくり、サブタイが決まるまで鳴かず飛ばずだったアクセス数が、（それでも人気の方にすれば微々たる量ですけど）倍加したんです。

数字だけのタイトルですごいアクセス数を稼いでらっしゃる方もたくさんおいですが、凡人はやれることをやるときましようと言うことで、今日もサブタイに命を懸けるたすくなのでした。（ただオタクだけという見方ももちろんありますけどね）

中には、書いてしまつと内容ちゃんばれつてサブタイで躊躇することもありますが、完結して改めてそれを見ると、それだけで物語の流れが見えて、なかなか感無量でもあります。

で、私が選ぶベストサブタイトルトップ3……なんだろう？

オトウサマ（Future）

融け出した万年雪（my precious）

山笑う（再び桜花笑う季）ですかね。

一人称はキャラなりきりの証し!?

私の作品……ほとんどが一人称で書かれています。

で、「切り取られた青空」では女性一人称に（ブログで日記を付けるがごとくスタート）したがために、相手方の亮平の気持ちやその後の事情が一切書けず、結局「切り取られた青空 - いと - 」を書くはめに。

大人の男の一人称なんて書けるのか？ と当時は不安でしたけど、書いてみるとコレが結構楽しかった。

今ではたぶん、男性主人公の方が数は上回っていると思います（正確に数えないのがたすくらしいですけど）

それもこれも私のなりきりのなせる業。「いと」の結婚部分ではテンションをあげまくり、「遠い旋律」「指輪の記憶」「my precious」ではキャラに引きずられて体調不良を起こす。

なんだかなあと思って三人称に挑戦するも、「満月に焦がれて」はそうでもないですが、「Parallel」は三人称の顔はしているけど、どう考えてもあれは一人称。私には三人称はムリなのかもしれないなんて昨今は開き直ってるかもしれませんが。「再び桜花笑う季」以降も一人称が圧倒的に多いです。

「オラトリオ」シリーズに至っては、ついに話によって語り部が違うという荒技に出てしまいました。

（でもコレ、ネットでは結構使われている技法ですよ）

私が一人称にこだわるのは相手方を謎にしたいからです。知ってて

思わせぶりに伏線を張る技量がないもんですから、私は主人公と一緒に首をかしげて、一緒にネタばれの際ビツクリしまくる訳です。

ただ、死にキャラをメインで書くとそいつに『呼ばれてしまう』らしく、本当に体調を崩します。それを見かねたりア友ちゃんの一言で「ハムケ〜オジツ ハムケ イツソ」が生まれたりもしましたが。

来年マジで50歳になるので、あまり無茶をするのは止めようと一応思ったりしていますし、年なんでしょうかね、昔みたく根づめられなくなりました。（なんだか寂しい話になってきたなあ）

今後もよほど何かの縛りがない限り、たすくは一人称で書き続けると思われます。

自己満足のためには、努力は惜しみません

小説が完結したとき、私はずるやること……それは印刷です。

私にとって、自分の作品を製本してやっとその作品が完成した事になるんです。

なんせ私は現在49歳、堂々たるアラフィフなのです。パソコンに明るいわけではありませんが、自分が必要な機能だけは何とか使いこなして小説を更新しています。

ただ……一番見せたい昔の物書き仲間ってば軒並みそういうのに弱くて、半分はパソコンすら持っておりません。そんなリア友たちに今の私の勇士？ を見てもらうには、頑張って印刷するっきゃないんですよ。

でも、私ってオタですから。コピーをそのまま渡すなんて失礼なことできません。きちんと製本する。そのために製本用の横ステープラー（しかし、ちょっと日和って30枚タイプ）まで買い込みました。

ここでの挿絵表示法がわからず、貼ってませんが表紙にも拘ってません。

まだ全部表示してないんですが、サイトの各作品のトップページに掲示していくつもりです。

次は、製本の仕方です。

「私の本」はA5サイズ。あまり字が小さいと、近眼ですから老眼鏡は必要ありませんが、眼鏡を外して読まなければならぬし、A4を半分にすれば良い訳ですから、カットの必要がない。素人がカットした紙は揃ってなくて、紙詰まりの原因になりますから。

最初は、ブログとかポータルの配信画面を印刷していました。

そして、それを自作の白紙の本ベースに貼り付けるという方法。それだとページ繰りを考えなくていいんですよ。

でも、この方法では、かなり良いノリを使っても暖房などを使用すると貼ったはずの紙がはがれてくる。

なので、それを崩さないように両面コピーした時期もありました。ワードに製本用の印刷機能もありますが、文字ポイントを下げても文字の隙間が大きいんじゃないでしょうか。紙数が嵩むんです。

嵩むと（最初に使用していたのが10枚タイプだったのもあり）止まらないんです。

以後、30枚までOKのステープラーを買い込んだこと、某ポータルがスマホに対応してセンタリング方式になったこと、サイト化して原稿幅が変わったことなどいろいろあって、今のワード落としとなりました。

そうしてできた本ベースに、ラベルソフトから表紙になるテンプレートを探して印刷します。普通のコピー用紙に印刷して、ラミネーターでパウチします。

このためにラミネーターも、わざわざ買いました。

実は、怒られると思っていたこの買い物、一番喜んだのは夫でした。夫も仕事柄必要で、私が買わなくても早晚買うつもりだったらしいと聞いて、正直脱力しました。

後日、私の仕事にもこのラミネーターは大活躍。無駄な買い物ではなかったと思っています。

これを90度反転させることができるステープラーで止めて出来上がります。

苦労してつくったそれは、それに値する出来映え。なので、周りの方がどんなに呆れようとも「世界で一冊の私家版」作り、たぶんこれからも止められないでしょう。

カナンの地を離れて

今回はペンネームのことなど……

私、神山備はこうやまたすくと読みます。一応、my pageには読みは付されておりますが、作品トップページとか、書かせていただいた感想などには漢字のまま表記されるので、みなさんこいつ誰？ 読みもわかんねーし。と思われているかも知れません。

某所では本気で男と間違っつてらっしゃった方もおられたので、なんかしつこくおばさんと書き込むクセができました。

で、この神山備という名前は、聖書のアドナイ・エレという言葉（主の山に備えあり）から取りました。私、30年越しのクリスチャンです。

「聖画」や「立証・25年目のラブレター」「バニシング・ポイント」などのキリスト教がバックボーンになっている作品も発表しておりますが、なんせ、創作再開の第一作目の「切り取られた青空」がアレですから、カミングアウトしたら引かれるかもと思っちゃってます。

実は私がブログデビューしたのは、なんと信仰ブログなんです。日々の信仰生活を私のドジ話を含めて書いてました。そのブログタイトルも「こうやまたすくのアドナイ・エレ」どーでもいいですが、よくよく考えると、頭痛が痛いつて言ってるようなタイトルであります。

その後、大手カタログ販売会社の押しに負けてダイエット食品を大

量買いする羽目になり、これは御心なんじゃないかと、ランキングにまで参加してすっかりダイエットブログにリニューアル。

そんなある日、ひよんなことから、そのダイブロで知り合った既婚アラフォー女性ブロガー（私もその時はギリアラフォーだった）3人で恋愛がダイエットの妙薬だって話で大いに盛り上がったんですよ。

「だけどさあ、今更危ない恋なんかできないじゃん」と、P子ちゃん。

「ロマンスなんて結婚前の想い出の中でしかないよ」と、Nちゃん。

「ま、妄想で理想の彼氏でも作るしかないか。」と、私。昔小説書いてたからねえ……って、ぼそつとつぶやいた（書いた）ら、二人が「書けっ！」

って食いついてきた。さらに、

「内緒で書いても解かんないでしょ。ここに載せなよ」とダイブロ上で小説書けなんて言うのまで現れて…

そう言うのに絆されて構想を練りだして浮かんだのがあの「切り取られた青空」ダイブロのみんなに楽しんでもらうにはってネット恋愛をテーマに選んだは良いが、いきなり泥沼にはまり込んでしまった展開を、元々信仰ブログとして立ちあげた場所に揚げるのは甚だ忍びなく……

で、別のプロバイダーで小説オンリーのブログを立ち上げることになりました。

とりあえず、だーっと、書いて仲間内に見てもらえれば良いやって宣伝もしなかったし、そのブログのカテゴリーランキング以外はなにも付けてなかった当時のブログ。

なのに、そんな深海魚なブログを新着で見て訪問してくださり、今

でも仲良くしてくださいさる奇特なFさん。小説用のテンプレートを紹介してくださいさつたり、彼女経由で他の方の作品にたくさん触れられるようになったのです。

ポータルサイトがあることも彼女が教えてくれました。そしてあるサイトに登録、志を同じくする方にたくさんたくさん出会うことができました。

今、その方々との交流が、私の創作の支えとなっています。

私のブログのタイトルは

「私のベテル〜ゆめのきざし〜」

で、現在はエッセイとかお知らせなどの雑記帳になっています。

ベテルとは創世記でヤコブが長子の権限を兄エサウから略奪しようとして、エサウの怒りを買ひ、ハラシという母の実家に逃げて行く際、野宿した場所の地名。

全部を欲したために全てを失ったヤコブは傷心の中、石を枕にして眠ります。

しかし、その夢でヤコブは天使が梯子を何度も行き来する姿を見ます。

「僕は何もかも失ったと思っていた。神様からも見捨てられたと思っていた。でも、神様は僕をお見捨てではなかった。だって、ここも神様の国なんだから」

目を覚ましたヤコブは、そう言って、その石の前で首をたれ、感謝の祈りをささげたのでした。

ここも神の御国なれば……クリスチャンテイストまるでゼロのキャラたちを走らせていることも許してくださいさる神様に感謝をしつつ、たすくは今日も書き続けています。

網の上にも三年

本日、(10月30日)たすくはめでたく?? ネット物書き三年を迎えました。

「青空」と「いと」を書き終えたとき、しばらく書かないっ! っ
て思いました。「いと」のラスト直前に職場で倒れて、「このまま
じゃ寿命縮まつちゃう」って正直思いましたから。

ま、大体拾った命ですから、またすぐに落つことしそうなんですけ
どね。

とりあえず、頭にあつた「旋律」だけ書き終えてつて、すごいスピ
ード(12日)で書き終えたら、「満月」の構想が……

しかし、ノリノリで「満月」を書き終えた私は、執筆直後に高広の
名前が大量に高弘になっているという事件(私には事件です)が起
きて、ずーんと落ち込み。約一ヶ月、それらの推敲だけで過ごしま
した。

だけど、「満月」を書き終える頃には、「パラレル」のビジョンが
すでに私の頭を席捲していたんです。

で、「やつぱり書きたい」と思えた1ヶ月後、「パラレル」を開始
以降、「指輪の記憶」(最初は別物としてカテゴリー分けされてい
ました)「my precious」「precious dream」「ハムケ」(これは事情でシリーズには入れてないんですが、
関連はあります)「Future」と、次々書き続け、なんと約8
ヶ月も「パラレル」シリーズに浸かり込んで、気がついたらその年
ももう終わりになっていました。

で、「パラレル」シリーズですがのたすくも力石戦のジョーの様に燃え尽きるか？ と思いきや、完結直前にある方から「SF短編賞」のお誘いがあり、お祭り女たすく、浅慮なので受けてしまいました。

受けてから、後悔しました。SFなんて経験ゼロ。元々往年の「少年ドラマシリーズ」は大好きでしたが、科学的知識なんてまるでありません。

それでも、慣れないSFと言う世界に汗をかきながら、誘ってくださった方々に報いるべく、「赤い涙」が生まれました。

同時期に某ポータルでの自主イベントもあり、「赤い涙」で「パラレル」以外のキャラも書けるんだと、ちよつと自信を取り戻した私、初稿では高広シヨックで書けなかった「旋律」の続編を書くことができ、それを参加作品に致しました。

そのあと、「旋律」のその後など、怒濤のように溢れる続き妄想。実は「バニシング・ポイント」もある作品のスピンオフだったりするのですが。旧作との接点部分がすこしく少しなので、全く別物として読んで頂いて一向構いませんけど、知っていると「ああ、この人たち」とニヤリと笑えるはず。

その「バニシング・ポイント」も、今回別視点が出てしまつて、どこまで芋づる式にするんやと自分でも少々呆れ気味ではあります。

そして、いよいよネタが切れる？ と思つたとき、ある方が名前を入れるとオススメのプロットを作ってくれるソフト、「プロットつくったー」を紹介してくださつたんです。で、出てきた

『S男が弟子を従えて冒険する異世界ファンタジー』
と言う言葉にたすくはいたく反応してしまいました。

で、魔法分かんない。世界観なんて作れないとうなりつつ、書いたのが「道の先には……」でした。

そこから出てくる出てくる各キャラのサイドストーリーは、もはやお決まり事かも。私のブログではもはや有名人のリア友栗ちゃんに、「たっちゃんの脳はどんな構造になっとなのやろうね。私には想像つかんに」

と半ば呆れられている昨今です。

そんなわけで、幸か不幸かまだ私の妄想は丸三年たった今も枯渇しておりません。

これからもそんな妄想の垂れ流しにお付き合いくだされば幸いです。

蛙の子は蛙

拙作「彼方へ…」はほぼ実話。あの物語に出てくる真実くんは実は女の子で、称理あぐりと言います。

この称理、通称あぐりんは、私と同じようにデカ女、若い頃の私と同じような職種を希望し、同じように声優オタ……

ま、放送開始時2歳のあぐりに、「金田一少年の事件簿」と「名探偵コナン」を毎週欠かさず見せて情操教育した母が悪いか。

その甲斐あってか？ あぐりんが初めて読めた漢字は何と「殺人事件」、2個目は「犯人」だったんですよね。ネタとしてブログに載せたりしましたが、親としては複雑です。あ、カタカナはかわいく「ポケモン」で覚えましたが。これもゲーマー母の影響と言えはそうかも。

だけど……このあぐりん、中学生までまったく本を読まない子だったんです。アニメは見るけど、コミックスもあまり読まなかった。私のリア友に、「たっちゃんの子なのにな」と言われてきた奴なんですよ。

そのあぐりんがアニメをきっかけに二次（所謂夢小説と言う奴）にはまりました。最初はひたすら読むだけだったんだけど、そのうち書き始めちゃいました。

で、私が某ポータルに登録したとき、彼女も登録したいと言いだしたんです。聞けば、二次じゃなくオリジナル長編を書く。目眩がしたけど、夫のアドで登録させました。

その時ペンネームが必要でしょ。あぐりんは母と違って名付けはあまり好きじゃなく、

「ママ、そのハンドネでさんざんあたしのことネタにしてんでしょ。いいよ、そのままもらっちゃう」

と、何とも短絡的に神山 称理と付けてしまいました。

最初はその名で二次も書いていたんですが、後日やっと二次は別名を冠してくれるようになりました。名前が一緒だと、母としては、ネタにしにくかったので、ちよつとホツとしています。

ちなみに、その名は苗字まで書いてしまうとしかられるので、名前だけにしますが、凜^{りん}でも、それって、あぐりんのりんじゃねえの？ やっぱ我が娘、短絡。

親子で物書きをしていると言つと、うらやましがられることも多いけど、娘は母の作品だけは見ようとしませんし、母は娘にログインパスワード（夢小説は細かいパスワードを入れないと開けないタイプがあるでしょ）を教えてもらえませぬ。声優の〇〇さんの誕生日なんて、知るかいっ！（いや、私の好きな声優さんなら分かるんですけどね）

ただただ、家でパソの争奪戦が繰り広げられるだけです。それに疲れた母はポメラに逃げました。

とまれ、これはあぐりんが幼児の頃には想像もできなかった事態です。『魔女の宅急便』でキキが

『魔女は血で飛ぶのよ』

と言つように、

「モノは血で書くのよ」

どういふのももしかしたらあるのかもしねえません。

1つの作品に100の人生あり

私は短編は書けません。しかも単発で終わることがほとんどなく、見事にシリーズ化して、雨後の筍の如くサイドストーリーが生まれてしまいます。

物語は主人公だけでは生まれません。当然ながら脇キャラがいます。と言うか、私は

『脇キャラに魅力がなきゃ、物語は半分以上死んでいる』
とまで思っている始末です。

そんな脇キャラと言われる人々も、実際に生きていればそれぞれの人生があるわけで、どこまで細部設定しとんねん！？ とブログあとかぎでは呆れられたほど、名前しかなかった脇キャラにまで設定が入ることが多いのです。

そして、案の定、そんな脇キャラの妄想が始まってしまい、続編や番外編が生まれてしまっうんですね。

一応どれも単品でも読めるようにと心がけてはいますが、私の中ではきつちりつながっているのです。案外と説明不足な所があるかもしれません。

ちなみにその最たる例は「遠い旋律」のブログでのあとがき。最後にちよこつと顔出しただけの芳治の事を書いているのですが、その時点で私翔子と穂波のことをかなり事細かに名前まで入れて既に書いていたのです。

ご存知のように一年後、「再び桜花笑う季」になりました。

「パラレル」では高校・短大とかなりの数の同級生が出てくるんですが、そのうちの何人かのサブストーリーがあります。その中で一番声がデカかったのが健史で、あの「my precious」になりました。

「1000人の登場人物がいたら、1000の人生があるんだよ。だから、ドラマの最終回ってキャラ総出で終わっちゃうことが多いのかもね」

とは、大作を校了されたあとのFさんの台詞。

「だから、スピノフしちゃ作家さんが多いんだろうね」
私は彼女にそんなコメを送りました。

サブストーリー上等、スピノフ万歳。

「1つの作品に1000の人生あり」

結構名言ではないですか？（自画自賛）

たすくは芸人気質？

べつのポータルで、老いをテーマにした作品を読んだときです。私は、古い映画ですが「翔ベイカロスの翼」のワンシーンを思い出していました。

この映画は実際にキグレサーカスでピエロをされていて転落事故で亡くなられた方の実話をもとにした作品で、私は当時ファンクラブにまで入っていたさだまさしさんが主演されるというので、半ば内容そっちのけで見に行っただけですよ。

確かに、映画自体も良かったんですが（もう号泣しちゃいました）私が一番印象に残っているのは、主人公の先輩ピエロ（曾我廼家明蝶さん）が公演先でチンピラにボコ殴りにされるシーン。曾我廼家さんは殴られながらへらへらと笑い続けます。その様子を見たチンピラ達は彼を嘲笑いながら殴り続けます。そこで彼は言うのです。「よお見とくんや。芸人はな、笑われてなんぼや。自分の体削りながら人笑わす……」

その方にコメントを送った後、仕事の行き帰りに必死に記憶を手繰って思い出しました。たぶん、こう言ってたと思います。もう、ワンシーンだけなのに、ものすごい存在感でした。

私は笑わせている訳ではないですが（無闇に泣かせているというご意見もありそうですが）、なりきり書きする中で、時々命を削って書いてるよなあと思うことがあります。メインで死にキャラ書くと必ず倒れますから……（入院まで行ってないのがせめてもの救い）

何でそこまでせんならんねやろうと自分でも思います。だけど、一

旦命を吹き込まれたキャラに魅入られてしまうと、その気持を代弁せずにはおれなくなる。そして、根を詰めて詰めて書きまくり、書き終わるとぶつつん脱力……いい加減もう少し楽な書き方はできるのかって思いますけど、これができやんですわぁ。

芸のためなら点滴くらいなんでもないやろという芸人（芸人っ！かもね）氣質たすくへの夫からの一昨年の誕生日プレゼントはラミネーター（私が買ったんですけど、あとでお金出してくれました）クリスマスプレゼントは、コピー用紙15,000枚でした。

ちなみに、夫は大の活字嫌い、私のはもちろん誰のも読まないので、安心して（？）書けます。

かちとなのなのつぶやき

ウチのOSはウィンドウズ7。発売されてわりとすぐ購入。

別に新しいOSじゃなきゃ嫌だとかそんなことは全くないんです。むしろその逆……ウィンドウズ7に換えたおかげで、愛用していたハングルフォントソフト、使えなくなり、新しいのを買う羽目に。今はダウンロードできるソフトもあるらしいですけど、説明解からのよ。ダウンロードできやん。

ま、読めるけど意味解かないという悲惨な語学力ですし、ここではUniコード使えないから、表示できないんですけどね。

ただね、「Future」の時、おぎと入れただけで予測変換でお義母様、お義父様が出てきてくれたのは嬉しかった。さんと打ったら……でてるし。

そんなたすくが何故新しいパソコンを買わねばならなかったのか……しかも自分の金です。

それはパソコンを夫と意地でも分けたかった一心でした。

たすくはローマ字変換。ワープロ時代はかな変換だったのですが、あぐりんが学校でローマ字変換でパソコンを習うというので、同じ覚えるのなら、ちゃんとしたキータッチ（ブラインドで）覚えた方が良く、タイピングソフトを買ったのです。あのコロン。

決してゲームたすくがゲームがしたくて買ったのでは……ありませんが。

あぐりんと競い合って打ちまくり、ローマ字変換に変え、現在は推定二級レベルに。

しかし、夫は頑固にかな変換のまま。しかも、パソコンは夫のものですから、当然初期設定をカナ変換にしてある……となるとどうなるか。

私がパソコンで原稿を打ち込もうとする時、毎度プロパティをいじつてから書き込みを始めないといけなくなるのです。しかも、ブログコメントなどは、一人一人毎度設定を弄らないといけない。

これが結構面倒、そしてストレス………ついつい忘れて「たすく」と入力すると、「かちとなのな」と表示される。ダイブロではかちと打っただけで名前欄にかちとなのなと表示されたほど。

んで、家電量販店のリニューアルに乗じて私がローンを全て払うことで説得、夫とのパソコン住み分けが実現しました。

そして、つい先日………使用している光通信から電話で、ルーターをレンタルで使いませんかとのこと。

先日メールソフトだけが動かなくなったとき、リモートサポートという、こちらが許可すると、電話口のNTTの職員さんが、ネットを通じて直接我が家のそれを直してくれました。今度も、解らなかつたらそこに連絡してくださいとのこと、この鶏頭でも何とか大丈夫そう。

思わず、営業の人に、「こちらが「ありがとうございます！」と叫んでしまいました。

これで、難敵あぐりんは無線LANカードを渡して住み分けができます。

それから、ソフトまで買っているのにできなかったWi-Fiでお家カラオケも。

これでかちとなのなもつぶやかなくてよくなりそうです。

実録「切り取られた青空」

このタイトル付けると何かお月様に行かないといけない文章になってしまいそうです。

ご安心ください、全年齢大丈夫ですから。

「切り取られた青空」

大抵は作品の方が先というか、タイトルが決まらず、なかなか出せないものもあつたりしたんですが、これはタイトルの方が先にありました。元々、ダイプロで昔話をした時の記事のタイトルをそのまま流用したので。

その内容は決してアブナイ恋愛事情ではなく、自身の拒過食症の話もう25年くらい前の話ですが、私は、ある時から他人の前で食事ができなくなってしまったのです。

理由は簡単、食べるとデブになる。食べるからデブになるんだわと思われている……そういう思いに捉われてしまったのです。

職場ではコンビニの半分のおにぎりまでが限度。それでも全く食べないわけにもいかず、約二年間それを続けました。

だけど、それではお腹が空いてくる。でも、人前では食べられない。

なので、仕事を終えてから私は、テイクアウトのお弁当さんでお弁当などを買って、そのお弁当屋さんのある雑居ビルの屋上（勝手に入れたのです、今考えれば不法侵入です。ビルの管理人さんごめん

なさい)で食べるのが常に。ビルとビルとの隙間からちよっぴりだけ見える、抜けるような青空を見ながら、泣きながらお弁当を食べた日々を綴ったものでした。

あの時小さな空間からなかなか抜け出せなかった私と、結局パソコンから抜け出してリアルにできなかつた加奈子を重ね合わせてのネーミングでした。

それでは上がりませんよ

それまで書いていたモノでも結構ふしぎ話が多いたすくですが、異世界ファンタジーを書くのは「道の先には……」が初めて。

ギャグで乗り切っていることも多いですが、それなりに世界観はちゃんとしていないといけないからと、ファンタジー作品を読む機会が以前よりずっと増えました。

……というより、それぞれの作家様が自分にはない発想で紡がれていくのを感じて見てるってだけなんですけれど。

その中で、最近気になることというか、非常に残念なことが一つ。

ここしばらくランキングサイトのファンタジー上位の方が相次いでここでの更新を中止されているということなんです。

ご自分のサイトを作られてそこに落ち着かれた方はまだ良いのですが、ここだけでの活動のかたもいらっしやる。続きが見られないのはファンとして非常に寂しいです。

で、その方々の活報を見ていると、一様に「感想に感想ではない辛辣な攻撃文を書かれて疲れました」と書かれてありました。

私は、活報で見つけた「現実味のない文章」という一文に（お一方じゃないんです、複数の方に全く同じ言い回しを見つけました）申し訳ないんですが思わず笑ってしまいました。もちろん、作者様ではなく、感想もどきを送りつけた輩にです。

現実味なくて当たり前じゃないですか、ファンタジーですもん。科学的な根拠を（偽でも）付けられたらそれはもう、ファンタジーじゃないってSFでしょ。

特に異世界ファンタジーは世界から作っつけていかなければならない。そんなカスタマイズされた世界に、地球の常識をこり押しすることからして、もうナンセンス。

それで、この感想者が何のためにこんな感想を書いているのかわかって思ったとき、私の頭を過ぎったのが、『この人がランキングについて、なぜ私がないのだ』って声。

狙われているのは、軒並みお気に入り登録を4桁で持っているような方ばかり。上を落とすしちやええ、自分が今度は浮上する？

……んな訳ないじゃないですか。たぶん次の作家様が彗星の如く現れて、その方は相変わらず沈んだままだと思いますよ。で、また上位攻撃を……その繰り返し。

こんな深海魚のエッセイなんて、読んでらっしゃらないでしょうが、もしこの文章が目にとまったら、そういう書き込みはもう止めた方が良いと思いますよ。

言葉は凶器です。使い方を間違えると、わずかな物でも死に至らしめる劇薬です。リアルにぶつけられる罵声も高ダメージですが、こっちは形に残る文章は、更にダメージが持続します。

ネットでは消えるだけですから、書いた本人に余り罪悪感を感じさせないのも問題です。書かれた本人は、体調を崩すぐらい悩んでいるというのに。

そういう書き込みはある意味作者様の『物書き』という面を殺す…
…部分的な殺人に匹敵すると私は考えるのですが、これは極論でし
ようか。

ま、そういう口幅つたいことはともかくとして、お願いですからた
くさんのファンの楽しみを奪うことはしないでくださいな。

老婆の老婆心なお願いでした。

引きの強さ……あるかもしれません

私の場合、ほとんどの場合、ラストシーンが頭に浮かびます。で、そのラストシーンから逆に道をならして行く作業が頭の中であって、書き出しにたどり着き執筆が始まるのです。

書き始めると今度は今来た道を引き返して、再びラストシーンに向かって走り出すのですが、大まかにしか決めていなかったことをいざ書きだすと、自分でもびっくりするほど辻褄が合っている！

一番すごかったのは「青空」の板倉家の引越先、日進市。当時ダイレクトアタックのたすく、地図も見ないで名古屋市以外の愛知県内の市を適当に書いたただけだったので。

地図を見たのはずいぶん後で（すぐ見んかいつ！）実は、「いと」で香織がいたくらに乗り込んで行くシーンになり、行く理由をこじつけるためでした（笑）

ビックリしました。名古屋市にはつちり隣接している。動物園、目と鼻の先！ 思わず、パソコンデスク叩いちゃいました。

「パラレル」シリーズのタイトルがなんで全部英語なのかも、全部書ききって初めてわかりましたし。（これを書いてしまうとネタバレになってしまうんで書けない。読了してくださった方は想像してみてください。『彼女』がどこで書いていたかを考えていただくと解かります）

そして、最も引きが発揮されるのは音楽。

「切り取られた青空」の「もしも雪なら」

「満月に焦がれて」の「時の足音」

「パラレル」の「紅蓮の月」「二人三脚」「そしてボクにできる」と

「再び桜花笑う季」の「ジューンブライド」あなたしか見えない」は執筆中、

「切り取られた青空・いと・」の「永遠」

「遠い旋律」の「君が思えば……」

「再び桜花笑う季」の「さくらびと」

は執筆後、私の許に引き寄せられるように私の耳に聞こえました。これが実に、作品とマッチしているんです。

ここまで書いて、ハタと気がついた。私今回、自作の宣伝してるだけだわ。

(いや、今回だけじゃないですね。結構私、ここで『番宣』してます)

(開き直って一言)気が向いたら読んでください、お願いします。

自分の引き際について

先日、ダイブロの方で絡んでいる方のプロ友さんが亡くなられました。長く更新がないので、心配していた矢先のご遺族からの訃報更新だったそうです。

最初、ご遺族は報告からしばらくしてそのブログを閉鎖するつもりだったようですが、長く貼られていたその方の訃報に、ぞくぞくと寄せられる故人を偲ぶコメントの多さとその内容に、とても消すことができなくなり、

『これは〇〇が生きた証。そのまま放置させていただくことをお許しください』

との一文を載せ、公開続行を決められました。

その記事を読みながら電腦社会が長く続けば、そうした「箱の中の墓標」も増えていくのかなと思うと同時に、「さて、自分の引き際はどうしよう」と考えていました。

一応、称理にはそうなったら代理でその旨を更新するように言っています。ありますが、早めに死亡記事書いて、自分へのお悔やみコメ見て…なんて不遜なことも考えたりします。

ま、そういう状態で、記事が書けるかどうかは甚だ疑問ではありませんが、(そこで揶揄する記事を見たら凹むんだろっとなぁ)、絶対に

だって、小説は……ネタがなくなれば「閉店」せざるを得ませんが、このたすくの性格ではどーでもいいことはつらつらと書き続けると思っんですよね。

不慮の事故とかは別として、分かっている場合はちゃんと自分で幕

を引きたいなど。

その上で、生きてきた証としてネット上にひっそりと咲いていた、なんてね。

「落ちたらそれまで」のネット社会。その反面、その片隅で肉体は消えても思いだけがずっと生き続けている。

それともあと何十年かした時には「〇年以上更新されていない放置ブログは切る」なんてこともあるのかも知れませんが。それ以前にシステムやプロバイダ本体が変わって変更手続きを経ないから消えていくなんてのもあるかも知れませぬね。

数日前から庭で鈴虫が鳴き始めました。少しずつ秋の気配を感じて、ちよつとセンチになつてるのかも知れませぬ。

(昨年9月の記事を転載しました)

醸すぞお〜

ここでぷつと笑った方も結構いらっしやるかも知れません。

小説家といえど人間、別人になりきったつもりでもどこかしら自分らしさがでるもんです。

私の書く女性キャラは、ド近眼で耳の良いという設定がちらほら。これは、私自身がそうだからなんです。

受話器の中から電話の相手だけでなく、その隣の部屋から叫んでいる声さえ拾ってしまうキャラがおりましたが、あれはもろ私のことです。あぐりんが小さい頃、実家に預けたときなんかは、私は電話口に出ているあぐりに説明だけをさせて、答えは直接聞くからいいよと言い切っていたくらいですから。

それと、「旋律」で調律の悪いピアノで吐きそうになったのも私です。（もちろん高広はおりませんよ）

70年代アイドル歌手全盛期は、歌番組をほとんど見ることができませんでした。

現在は音楽を止めて久しいので、適当に耳惚けしてきたのか、昔ほどにはヤバイ歌に出会ってない気がします。それは、もしかして「日本ミキサー界の飛躍的進歩による勝利」なのかもしれませんか……

他の方の作品を見て、「あり得ねえ〜」と思ったアナタ、案外「事実は小説より奇なり」かも知れません。

アクロバティックタイピング

ポケモンタイピングにはまっていた時期がありました。

とっくに全ての画面は出しましたが、金メダルは半分くらい。

文字を打つのは良いんですが、ポケモンの名前が覚えられません。遠目で見るとルクシオとレントラー、ロゼリアとロズレイド（いずれも進化前進化後）の区別がつかないんですけど。などと言つと、お子様からおばさんの烙印を押されるのでしょうかね。

良いんです、彼らからすればおばあちゃんの域に入る年齢ですからね。

それと、ハングルのフォントがどうしても諦めきれなくて（フリーソフトをダウンロードしようとしたんですが、難しいので）韓国語の学習ソフトを手に入れたんですが、そこにハングルのタイピングソフトがっていました。

なので、日韓タイピング三昧の日々を今送っています。

韓国語の入力はX・Q・C・Vが頻繁に出てきます。私って独学でブラインドタッチなので、日本語ではほとんど叩くことのないキーは順番がいまいち曖昧だったんですが、これでしっかりと頭に入りました。

でも、相変わらず数字キーは弱いですが、頭に入ってます。ポケモンタイピングはワイヤレスキーボードが標準装備、テンキーがないので、一部のボスキャラには勝てないために金メダルが増えないん

ですよ。

後、もう一つ意外な弱点を発見。左利きたすく、右手でシフトキーが押せない（笑）いや、日本語は良いんです。！くらいしか私頻繁には使いませんから。

問題は韓国語で、濃音と呼ばれる日本で言う撥音系の発音（ダジャレを言うつもりはないんですが）はその清音にシフトをプラスする形になっているんです。発音的には正しい発想だし、覚えやすいっちゃそうなんです。Q・W・E・R・Tに濃音があるんですが、たすく全部左シフトを押しつつ左手で打ってます（本来ならYは右のカテゴリなんです。私左でつい打ってしまいます）

でね、実に濃音の出てくる確率が高いんですよ。その昔かな入力だった頃にもシフトキーを押しながら拗音を打ってましたが、日本語シフト必要語は大体右手のカテゴリですよ。

まあ、何となく分かるんですよ、韓国語のキータッチを決めた経緯。子音は左手で母音は右手で入力する。あの文字の成り立ちと同じようにしてあるって。合理的だと思うんです。

合理的なんだけど、私的にはなんとかしてほしいよおと思う今日この頃です。

そして私は、今日も手を引きつらせながら左手でシフトを押しつつ濃音を入力するのです。

終わりよければすべてよし

前にエンドマークのことについて書かれていた方がおられました。オタツキーたすく、エンドマークにもこだわりあったりします。

物語の設定でエンドマーク変えてたりします。

ネット小説、通常は「The end」「end」だけでもあつたと思います。これは横書きだから。

次に公募で書いたものに関しては「了」「同じく縦書きだから。

「ピカルとコロロ」は童話なので「おしまい」

で、何作か意識して「Fin」としているものがあるのです。

「満月に焦がれて」は乃笑留^{のえる}というキャラが出てくるため。思いつきりネイティブ日本人ですが、フランス語のクリスマスからとった名前だという件があるので。

それと「Parallel」シリーズ。実はこのシリーズのタイトルは全て英語です。

「my precious」「precious dream」英数にしちやうと半角になってしまったので、ひらがなのまま一文字ずつ毎回頑張つてスペル打ち込みました。プレシヤスと書くと、大事感減りそうで（笑）

でも、「Future」を書き上げるまで自分でなんでここまで英語題に拘っているのか自分でも分からなかったんですが、最後の最後になって納得しました。それは、「Parallel」シリーズを書いたのが誰か（作中ではあるキャラの回想録という設定になってます）が分かると、自然にそんなタイトル付けになったんだと理解してもらえそうです。

なら、なんでエンドマークがフランス語なのか……英語＋フランス語⇨ネタばれなので止めます。

あと、考えて没にしたのは、「ハムケ」韓国語で「イゴツ マジマツ（これで終わり）」にしようかとも思いましたが、題名だけでキヤラも設定も全く日本ですから。

もう一つ、これは今でも書き換えるかどうかを迷っているのは「遠い旋律」シリーズ。音楽用語の「Fine（終止符）」にしたいんです。「再び桜花笑う季」はダルセイニヨ、「交響楽」でコーダ、そして、「ボクのプレシヤスブルー」でFineになる……それはやり過ぎか。でも、「ダルセイニヨ」って題で書いてみたいんですよ。そんな力量はないから、せめてエンドマークで……

あ、今思い出した！ クリスマスバージョンのは、「merry christmas！」ってのがあった！

それに、「チーン！」は「チーン！」で終わってるし、「稀代の魔術師」は最初はエンドマーク付けてなかったり……

どんだけバリエーションあるんやって話でしょ。

ま、エンドマークをそんな風に見ている方もいないでしょうから、拘らなくても良いんですけど。

たすくですから……

名は文を著す？

リア友雫ちゃん（ハムケをリクエストしたあの子です）に、
「コウちゃんって、どんだけ名前考えるんさ。」
と言われました。

彼女には最近、あまり長い物をかいてないのもあって、校了後すぐ印刷して渡す、取って出し状態なのですが、あとかきも楽しみにしている彼女にはブログの方を印刷して渡します。その「埋火」のブログあとかきに「心残り」と題して、本文中に書いていない亮平の子どもたちの名前を書いてあったからなのです。

名前を付けるのは好きかも知れませんが、「交響楽」でも、久美子の6人の子どもの名前を誰似にするかとかも含めて性格設定しながら、楽しんでつけました。

そうやって、子ども世代の名前はつける感覚。自分で言うのもなんですが、難読が結構ある様な気がします。

なんせPTAの子供会の役員の最初の仕事が新一年生児童の名前の読みを親に確認って時代ですから。別に意識してるつもりもないんですが、どうも今様の名前を付けようとすると、そうなってしまiumたいです。

で、親世代の名前はなんか降りてくる感覚。

一番降りて来たなと感じたのは、やっぱりさくら。冒頭のシーンでの自己紹介しながら、「（前略）オレ、45期の…（えーつと、以前使ったのはあ行とわ行だったっけ、今回はた行でも行くか…

た、ち、つ…坪内)坪内:高広です。」

という脳内でのやり取りがあり、その後、高広が2歳年下だということを確認した後、

「私は…(じゃあ、今度はま行でつと…ま、み…三輪、三輪…)」
その時、高広が小さな声でさくらと囁いたのです。

「(あ、そう…さくらね、さくらつと)私は43期の三輪さくら。

(後略)」

まるで台詞を忘れた役者に小声で教えられる感じであの子の名前決まっちゃいました。

で、さくらという名前に決まったとたん、すんとストーリーの流れが全部決まったんです。

「パラレル」ではお坊ちゃまらしい名前をとということと、(2009年の時点で)最後45歳になるという年齢設定で、(辰年になるから)龍太郎に。

「バニシング・ポイント」の博美は最初裕美だったのですが、お姉ちゃんが順子とそれっぽいのに、何だかクリスチャンっぽくないよなってことで、クリスマスの三人の博士から博美と執筆中に変更しました。実はあそこまで宗教色を出すつもりがなかったのに、どんどんと信仰につっこんだ話に引きずられていったのがその理由。

一番とんでもないのは、「満月に焦がれて」の桜木弘毅。イケメンをイメージする名前がコンセプトって、どうよ?!

皆さんは名づけ…どうされてますか？

全然比較できてませんけど(前書き)

2001年5月23日、某所からの転載です

全然比較できてませんけど

何か、あまりどこにも出没しないでいたら、いつの間にかブログでバトンもらっちゃってました。

それも「オリキャラを比較する30の質問」だと……比較するってなにを？ 30も質問ってねえ。

ま、いきますわ。

あ、同じテンプレ形式なのに全然方向性違うのがあったわ。それにします。

1.この質問で比較するオリキャラの名前、出演作品を教えてください。

(何人・何個でも可)

『オラトリオストーリー』シリーズ

宮本美久 ビクトール・スルタン・セルディオ/鮎川幸太郎 コー
タル・トート・ランバルド・グランディール/櫛原絵梨紗 エリー
サ・C・L・ガツシユタルト/谷山薫 フロリア・P・A・ガツ
シユタルト(名前だけですのにめげるよ、まったく)

『Parallel』シリーズから、『Future』

飯塚未来/飯塚夏海/飯塚雅彦/飯塚明日香/結城秀一郎/結城龍
太郎/結城志穂/結城(梁原)健史

2. それでは質問です。一番つきあいの長いキャラクターは誰ですか。

もちろん、夏海（飯塚つか倉本夏海）と結城龍太郎。

3. そのキャラクターが生まれたのは何年前ですか。

「Parallel」

ちゃんと血肉が与えられたのは、3年前のバレンタインデーの翌日でも、構想だけなら22年前くらいかも。

「オラトリオストーリー」

プロット作ったというソフトで出てきた「S男が弟子を連れて冒険する異世界ファンタジー」という語句から。

4. キャラクターたちの年齢を教えてください。

すみません、『Future』はみんな激しく年を取ります。主人公の未来が25歳 46歳。

実はこいつらの接着面は未来ではなくて秀一郎。秀一郎の年齢が一緒だって、皆さん気づいてましたでしょうか。

「オラトリオストーリー」

糊代の美久とビクトールが23歳。絵梨紗とエリーサも11歳。この2組だけは一緒にしておりますが、幸太郎は27歳ですがコートル殿下は20歳、薫は24歳でフローリアは18歳。

総じて早婚の設定であるオラトリオメンバーの方がかなり若いです。

5・キャラクターたちの身長（体重）を教えてください。

飯塚夏海

157cm / 47kg

結城龍太郎

163cm / 58kg

飯塚雅彦

182cm / 88kg

宮本美久

165cm / 55kg

鮎川幸太郎

183cm / 76kg

6・一番美形なのは誰ですか？

美形……一番きれいなのは、もしかしたら美久ピクトールかも。夏海よりきれいかもしれない。何せ女顔ですから。

7・身体的に一番強いのは誰ですか。

ケンカが一番強いのは幸太郎で決まり。でも本当に強いのは……『Steiner』を暴発させる美久だという噂が。（すいません、激しくネタバレです）

8・では一番弱いのは。

秀一郎。お坊ちゃまだもんねえ。

9・精神的に一番強いのはだれですか。

案外、明日香あたりが一番強いのだろうな。とは言え、『Future』の女性キャラは全部強いと思う。

10・同じく一番弱いのは。

満場一致で龍太郎。あいつのヘタレがこの作品の核を成しているんだから。

11・一番性格が良いのは誰ですか。

うーん、大人集団なので、あまり性格の良い奴はいないかも。一番のんきなのは、龍也かな。(って、比較に名前出てきてないじゃん！ 未来の息子です)

12・一番性格が悪いのは。

たぶん、ビクトール。

13・一番頭の良いのは誰ですか。

一番記憶力が良いという意味では美久またはピクトール
一番仕事が出来るという意味では健史

14 . では、一番頭が悪いのは。

誰だろ。一番空気読めないやつは、やっぱり雅彦かも知れない。

15 . 一番生活力があるのは誰ですか。

生活力……みんなすごくあるんだよねえ。大企業の社長VS王族、
どっちが金持ち?? こっちが聞きたい。

16 . 一番路頭に迷いそうなのは誰ですか。

残念ながら? いません。

17 . 一番まっとうな恋をしているのは誰ですか。

幸太郎と薫(即答)

18 . では普通の恋と縁遠そうなのは誰ですか。

これまたネタバレっばいですが、満場一致で健史!! (読了され
た方はたぶん頷いてらっしゃるはず)

19・一番人付き合いがいいのは誰ですか。

誰だろ？ みんな適当に良さげ。

20・まともな人間関係が作れないのは誰ですか。

このメンバーではないかも。

21・一番守銭奴なのは誰ですか。

幸太郎？ タダのものを法外な値段で売りつけるし（コレもネタバ
レ）

22・一番苦労性なのは誰ですか。

健史かな。雅彦はそう見えて実は違う気がする。

23・一番ヘビーな過去を持っているのは誰ですか。

うーん、過去っていうんなら、夏海。一番ヘビーな展開は未来と明日香どっちだろ。とにかくこの親子は受難続きですよね。

24・一番良い思いをしている（あるいはする予定）なのは誰ですか。

たぶん、ビクトール。

25・一番辛い目に遭っている（あるいは遭う予定）なのは誰ですか。

未来か明日香。

26・一番多くの謎を持っているのは誰ですか。

全員。だって、謎っぽくしたてて引きつけるのが小説の醍醐味なんじゃない？

27・これから活躍するのは

（現在執筆中ということ）『オラトリオ』のメンバーです。

28・最後に一番成功するのは誰ですか。

いや、ネタバレなんで自粛します。

29・一番愛着のあるキャラクターは誰ですか。よろしければその理由もどうぞ。

うーん、昔は結城龍太郎は私の恋人だって豪語していたんだけど…

…、最近は龍太郎と美久の両手に花でいたい私です。

30・回す人は？

いや、いや、こんなの回したらど、どんな目に遭わされるか……なので、こんなに長いものでも頑張っ書ける奇特な方、持っていてくださいませ。

31・お疲れ様でした。最後に一言お願いします。

いやあ、大変でした。割とさくさく答えたのに、一時間もかかってるもんね。

頭の中でずっとくすぶっていたものに、きっかけが与えられてからほぼ一年。『Parallel』シリーズに浸かり込んだ一昨年でした。

また、『オラトリオ』シリーズの最初は「プロット製作ソフト」から。皆さんがくださる何気ない言葉などがこのアラフィフ女の妄想の糧になっています。

『オラトリオ』は未だつづきます。何だか、どんどん話が続いてどこまで行くんだろうと作者自身が不安になるほど。コレが終わらないと、『ターポイ』に戻れない！！

(この後、本編完結して一旦「ターポイ」に戻りましたが、またサイドストーリーにかまけてます)

てな訳でこれからもぐだ書きつづっていきますので、よろしけ

ねばお付き合ってくださいませ。

それにしても、長々お読みいただきましてありがとうございます。

神山 備

タイトルについて（ネタバレ注意！！）

今回はタイトルについて。タイトルって大事ですよ。その作品の顔ですから。

ポメラちゃん使用になって、やっとダイレクタアタックを卒業したたすくですが、とは言え相変わらずストックなど存在せず取って出しなのは全く変わらない訳で、そんなたすくはいつタイトルを考えるのか。

ずばり、骨子を組み立てているときですね。私の妄想のきっかけは8割がラストシーン。そこからゼロ時間へと戻る際に気になる重要なフリーズから、オープニングにたどり着くまでにタイトルが決まります。

「切り取られた青空」：パソコン画面

「満月に焦がれて」：満月＝出産、子供を産みたい

「ハムケ〜オジツ ハムケ イツソ」：韓国語で一緒にいてね

「再び桜花笑う季」：もう、内容まんま！

「Future」：未来語りだから

「Love Grace」：恵実と愛実

思いつきり、ネタバレしてるやんと自分でも思います。

そこまできて、決まらなかつたのが、「パラレル」と、「道の先には……」

「パラレル」はそれがために、連載スタートが一週間遅れることに。結局はあぐりんの理科の教科書を見ていて。並列つなぎから、平行線 結婚に関する男女の温度差とつながって、パラレルという英語を採用しました。

「道の先には……」はネットファンタジーにありがちな魔法・トリップ・異世界などの単語を一切使わないで付けたいと考えて、道に迷った彼らの行く先は？ と結局まんまなタイトルになってしまった訳ですね。

「遠い旋律」は構想を持ったのがたぶん20年前くらい。（執筆してないのに、妄想だけしてたんだよねえ）しかも主人公の名前は山口裕美。携帯電話もありませんでしたし、今とラストも少し違っていました。（裕美も……んです）

だけど、2人に携帯を持たせて、着信音を一緒にしたその時から、私の中でするとストーリーがつながりだし、仕舞いには高広が名前まで三輪さくらってかっつてに変わりました。絶対、あの作品には何か憑いてます（悪いもんじゃないだろうからお被いはしません）。ん？ というか、あいつが幽霊か）

皆さんのタイトル決定の参考に……なるわけですね。失礼いたしました。

机は……吊るもんなんですよ

2010年1月、SFの短編賞に応募しました。

とは言え、私今までほとんどSFとは無縁。「広義の」という謳い文句に助けられて何とか応募はしましたが、あれはSFって言わないよなあ、どっちかと言えば現代ファンタジーだよと自分でツッコミいれまくりでした。

何でそんな無謀をたすくがやったかと言うと、

「小説が上手くなるためにはやっぱ外部投稿だよっ！」

っていう物書き友人の言葉に絆されただけなんです。で、彼女らに「あくまでも恋愛ベースで、ちょこつとSFテイストのギリSFなら書く」と言って書いたのが「赤い涙」です。

慣れないSF、しかも主人公は高校生。自分と全くかけ離れた主人公を生き生きしゃべらせるには地元の言葉をしゃべるのが一番いいかなと、そんな短絡的な理由で物語の舞台を今住んでいる伊勢にして、伊勢弁全開のセリフ回しにしました。話の内容はともかく、地方の高校生（主人公は高校二年生）っぽさはうまく出せたんじゃないかと思えます。

当然？ 落ちまして、ここのラインナップを飾っております。

でね、この作品で一つだけ悔んでるのが、学校のシーンもあつたのに、机吊ってないんですよ。椅子も吊ってない。（ここで爆笑するのは伊勢……三重東部にお住まいの経験がある方も）

机を運ぶことを伊勢では吊ると言います。語尾以外のこっぴどい面白

い表現も入れたかったんですよ。

ただ、これは嫌がる方もおられるみたいですよ。この作品では語尾だけでしたが、

『関西弁（いや伊勢弁です）では感情移入できません』
との感想も頂きました。方言満載にすると、更に混乱される方は増えるかも知れません。

『そんなええ加減な設定さんす（する）と、ダダ崩れになるんちゃう。ホンマ、備さんって思いつきで押し切って結果オーライってこと多すぎるんさ。そんなんいつか絶対に破綻するに』この物語の主人公、ねもとたかし根元昂はそう言っって今、笑っってます。

ちなみに車は混まずに積みまます。

「昂が遅刻せんたら自転車積むとこ書けたのに〜」
と作者が言っつと、

「もう少し枚数あつたら、クライマックスで自転車か自動車小分けさしたつたら（壊してやれば）良かったかも」
と、一成が相づちをうっつてくれました。

では、この辺で。すいませんわ。（ありがとうございました）

時代と共に変わることもありますよね。

お祭り女たすくは、何度か外部賞に投稿しています。もちろん全部落ちてますが。

てきとーに書いていたたすくでしたが、一応商業媒体に送るんですからということ皆さんにいろいろ教えてもらいました。

三点リーダーが複数使いだとポータルでしりました。

「」のなかの最後の読点は今は入れないということも知りました。実は私ぐらいの年代の国語教育では、入れる物だったんです。原稿用紙が嵩まないのありがたいです。

ただ、応募作品はかなりの高確率で縦書き、縦書きだと使えないものってありますよね。算用数字に、ビックリして聞き返すコレ！？

ガキっぽいと言われようが、これってたすくにはある意味必須アイテムだっただけに、シヨックは隠せません。一応文章のつながりです？ を使うか！を 使うかしてますけど、なんかしっくりこない。

それと、縦書き自体、左利きたすくには何かホント言うつと相容れないんです。外国語のスペルそのまま入れられへんし、今や、ビジネス文書は大抵横書きですよ。ローン書類なんて、縦書きなんかで絶対書けやんやん！（ローン書類を小説の伏線に使うこと自体はないでしょうけどさ）

なら、ケータイ小説は？ と言われても、おばさんが見る（書く）受け皿ではないでしょ、あーいうとこ。ドロドロの愛憎劇なんて、

誰も読んくれそうにないじゃん。私の作品って、Fさん曰く「予定調和に属さないフリーフォールな読後感」なんですから。

ここでの作品を縦書きに変換して読んでいる方もいらっしゃるでしょうが、どうなんでしょう。私だけでなく、一行空けを多用する方など、縦書きにすると崩壊してしまう方、結構いらっしやるんじゃないかと思います。

ああ、そのうちに横書きが一般書籍の通常にならないかななんて思う、たすくなのでした。

たった一人でも良い、誰かの心に残れたら（前書き）

今年2月22日某所からの転載です。（追記あり）

たった一人でも良い、誰かの心に残れたら

今日、「僕と妻の1778の物語」を見てきました。

この映画は、眉村卓さんの奥様との実話がベースになったもの。わたし好みというのもさることながら、同じ大阪出身だし、昔懐かし
の「少年ドラマシリーズ」は欠かさずみていましたからねえ。

ただ今回、主人公の朔太郎にすっかり思いいれてしまいました。ちよつとした一言や、それこそ家具の隙間に落ちていているブリキの口ポットまでから妄想の糸口が見つかるあたり、本当に他人事とは思えない（苦笑：ちよつと使い方は違いますが、「ほかに言い方がわからなくて）

そして、そんな朔太郎の妄想を妻の節子がものすごく上手く引き出している。ああ、作家の奥様だなあと感じいたり、ちよつぴりうらやましかつたり。

そんな小説バカの朔太郎が病気の妻のために自分ができることは、「毎日3枚（1000字が目安？）以上の小説を書く」ことだけだった。時々エッセイだと彼女にツッコミを入れられながらも、1778作の物語を一日も休むことなく書き続けた彼の発想力・精神力・そして愛情……真似できないすごさを感じました。本当の意味でプロだと思いました。

そして、そんな夫のエールに妻は宣告された余命を超えて生き続けた。一作でも多く夫の作品を読みたいという気持ちが彼女の延命を促したのは紛れもない事実だと思うのです。

それから最近、私の知り合いの妹さんの末期ガンが消えました。兄弟たちが率先して

「絶対に治る！」

と本人を励まし続け、笑い続け、大好きなアーティストさんのクリスマスライブのチケットも迷わずとった結果だそう。

来週、そのライブに姉妹で行かれるそうです。

先日は心ない言葉で連載を打ち切られた作家さんのことを書きました。

言葉は人を活かすことも殺すこともできる諸刃の剣だと思います。

私の作品が何人たりとも傷つけることがありませんようにと祈ると共に、たとえ一人きりであっても、誰かに力が与えられる作品、誰かを支えることができる作品を一作でもかけたらなあと心からそう思います。

そのためにはとにかく書く。駄文しか出てこないですけど、そんな駄文でもピンポイントで届くかも知れないですから。

本当にあなたに届くといいな。

私の創作の原点（前世の異物）

私の小説初作品は二次からでした。とは言え、自発的にした物ではありません。学校の授業。

小学校二年生のとき、「あかいろうそく」という新見南吉作の童話の続きを作ろうという授業があったのです。お子ちゃまらしく、可愛くハッピーエンドだったような記憶があるだけで、元のその「あかいろうそく」自体どんな話なのかも覚えてません。

とにかく、生徒たちのブーイングのあらしの中、喜々としてあつという間に書き上げた私は、先生にはなまるをもらって上機嫌だったことを覚えています。

「お話しするのは楽しい」

40年経った今、同じことを言えるのは本当に幸せなことだと思います。

ただ、私ってつくづく自発的にものを書き始めていないんですね。本格的に小説という物を書き始めたのは中学3年から。小学校の図書クラブのノリで、本を読むために入った文芸部は、実は文章を創作するクラブで（知らなかったんです）とりあえず現代詩などを書いていたんですが、3年で友達が部長になり、部長命令で小説に手を染めました。

で、昨年夏、実家の押し入れの奥底から昔の作品一覧が出てきました。作品そのものを墓地送りにしてしまう代わりに、メモったものと思われまます。

記念すべき処女作はあのころよくありがちな病気ネタ。

ただ、これはたすくらしいところは、一旦主人公の一年分の日記を三ヶ月で書き上げ、その日記のイベントに沿って肉付けしながら書くという手法でした。今から考えるとそれがプロットとフロ―チャートの代わりだったのでしょう。でも、この日記作戦は性格設定を掘り下げるという意味に於いても構成を考えるとという意味に於いても勉強になったように自分では思っています。

それでもたかだか中学生が考える構成ですから底が知れてますけど。それはなんと卒業するまで書いてます。つまり中学時代はそれしか書いてない。やはり基本は現代詩とエッセイだったようです。

高校生になっても、第1作の続編というかスピノフをしばらく書いていましたが、やっとそれから離れて書いたのが、タイトル「戦争ごっこ」

戦争ごっこが大好きだった二人の少年。ずっと一緒にいようねと言っていたのに、一人が親の都合で引越すことになる。

そのことを引越すギリギリに知らされたもう一方は、さよならが言えなくてしばらくシカトをしたりする。

それでも、引越す当日になり、やっぱりちゃんとお別れを言わなきゃと思った少年は、いつも使っているモデルガンを持って引越す少年の許に急ぐ。

その時、通りかかった拳銃不審の青年とぶつかった少年。その拍子に二挺の拳銃が道に転がった。

男は暴力団組員で、たった今他所の組の幹部を撃つてきたばかり。少年はとっさに自分のモノだと思ったものを拾い上げ、引越す真最中の友人の家に行き、友人に向かつて

「いつまでも忘れるなよ」

と引き金を引く。しかし、飛び出てきたのはBB弾ではなく実弾だった……

一見、荒唐無稽な話と思われるかも知れませんが、私の生まれ育った街はあの「代理抗争」と言われるモノの舞台になった場所でもありました。おまけにモデルガンの規制も今ほど厳しくはなく、改造モデルガンのことが問題になり始めてきた時期でもありました。

結局、撃たれた少年は死に、撃った少年は思いがけない爆音に聴力を失うという、ものすごく悲惨な物語でした。

あまりの悲惨さに、後日死んだ方の少年の妹があれ以来心を閉ざしてしまった聴力を失った少年の心を解きほぐすというエピソードを付け加えたくらいです。

……当時の私は、遊びですら争うことが嫌いだったのだと思います。

・ つづく………のか？

占いは好きですか？ (前世の異物2)

続けて「過去の恥は書き捨て」いきます……

「タロットカードに……」

私って本当に三点リーダが好きです。タイトルに冠されている事はさすがに少ないのですが、サブタイトルではかなりついていていると思います。

ま、内容は高校生の恋愛話。

主人公は高校二年生の女の子。たまたま入った自宅近くの喫茶店で中学の時の同級生(男の子)を見かける。聞けばそこは彼の伯母さんがやっている店で、手伝っているらしい。

何となくその店の雰囲気が気に入って通っていた主人公は、ひよんな事から同じように来ている高校生のお客さんを持っているタロットカードで占う事になる。(どういう経緯で占いを始めたのか、完全に忘れてます)

で、それがよく当たるということが評判になり、店の隅っこに占いコーナーなんて設置してもらったりして……主人公毎日通うことになります。

毎日通う中で、主人公同級生に惚れてしまうのですが、この男、ものすごくイケメンでどの子にも優しい(大体客商売ですから、嫌な顔できないっしょ、ふっつ)

自分がどう思われているのか知りたいけど、直接きけなくて、主人公は自分のためにカードを繰り返す。
そして結果は最悪……

その後、すごく美人の女の子が現れてすったもんだがあり……

タロットカードって、正逆が運命を分けるので、利き腕側に倒すのがルールなんです。

そして、主人公矯正された左利きで、成長した彼女は自分が左利きであったことを忘れていて、占いの結果が真逆だったというオチでした。

最後は初夏の雨音を聞きながら相手の男の子がコクってハッピーエンド。

この時、たすくはクリスチャンになったばかり。しかも中学時代はマジで占い師になろうとか考えていたところからの180度転換でしたから。

実は中学生の時、私の一番仲の良かった友達が占いで悪いモノに取り憑かれてしまい、修学旅行の長崎で買った、彼女とおそろいの口ザリオを引きちぎられそうになってしまうということがありました。その様子がまるで聖書に登場する悪霊と同じだったので、そんな悪霊に従う生き方は止めようと、占いから足を洗ってクリスチャンに……

そんなわけで、逆に占いの矛盾点を突きたかった……可愛い青春モノにそんな裏も含んでおりました。

皆さん、占いは好きですか？ ラッキーカラーなどで日々の生活

に潤いを与えるものには害はないと思いますが、くれぐれもそれに
振り回されませんように。

- すいません、まだつづきます -

かろつじてセーフ？ それとも、アウト？？

墓地送りシリーズ第三弾、17歳のときの作品です。

「しおれた花」

主人公優子はごく普通の専業主婦だったが、夫淳が仕事で機械に右手を挟まれて動かなくなることによって人生が一変する。

労災がおりたものの、動かない手では今までの仕事ができずに仕事を辞めて酒浸りの淳。

駆け落ち同然で淳と結婚した優子は実家に頼ることもできず、自分から働き出す。

で、雇ってくれた会社の社長、明彦が今まで仕事一筋堅物だったんだけど、何を間違ったのかこの健気な人妻に恋をする。で、よしや良いのに優子に迫っちゃうんだな。

優子も駆け落ち同然で結婚した位だし、普通ならブレないんだろうけど、自暴自棄でぐちゃぐちゃの淳にだんだん疲れてきて、つい明彦の誘いに乗っちゃっ。

そして、ついに明彦との関係が淳にばれてしまった。淳は暴力をふるい罵りながら優子を抱く。そんな昔と全く変わってしまった夫にほとほと疲れて、優子は翌日荷物をまとめて明彦の許に走ったのだが……

しばらくして優子は妊娠していると分かる。時期的にどちらの子か分からない。淳は離婚を承諾してはくれたが、それでも法律上は淳

の子になる。

産むかどうかを悩む優子に、明彦は

「どっちにせよ、その子は君の子に間違いないんだ。僕に君の子を育てさせてほしい」

と言い、優子は男の子を産む。

しかし、生まれたその子は日に日に淳に似てくる。優子は自分の罪の意識に耐えきれなくなり、次第に壊れていく……

2人が普通に幸せだった頃、部屋に飾った思い出の花。淳の方はすでにドライフラワー化したその花を、優子は異様に執着するので明彦が定期的に入れ替えるその花を、別々によどんだ眼で見つめるところで終わります。

とまあ、今の私がこのプロットをこうして書いたとしても何ら違和感も不思議もない訳なんです……

私、最初に書きましたよね、この話を書き上げたのは私が17歳の時……高校三年生になる春休みのことだって。

この頃そんな区切りはなかったですけど、R-18？ もちろん直接描写なんてしませんでしたから、ギリギリR-15にカテゴライズしてもらえるでしょうか。

どのみち、高校生が書く話ではないです。

その墓地送りメモには、

「家庭科で習った300日法だとかを駆使して書いた」とありました。ただ単に、法律って血が通ってないよなあくらいの

気持ちだったみたいです。

後日、拙作の「切り取られた青空」をあんな結末にしたのは、書いていてこの話をふと思い出したのもありました。

きつと、優子と同じように、加奈子もその重圧に耐えることはできないって。加奈子の場合は、心を閉ざさずに逃げるでしょうが……それでもみんなが不幸になるだけだと思っただんです。

ま、「見てきたようにウソをつき」というのか、若いですごくいよね、無謀だねと思った作品でした。

未だつづきます

そう言えば、SFですね。（前世の異物4）

「時の流れに」

時空警察修習生小野寺保は、初めての実地研修に弥生時代に行く途中時間事故に遭う。たどり着いたのは平安時代の京都、折しも藤原氏が全盛の時代。タイムマシンの機器も壊れていて、救助信号が出せているのかも分からない。

その時代の人間になりすまさずに調査することもあるので、マシン内には約一月分位の備蓄食糧があったりはするが、遭難状態がそれ以上に渡るかもしれない。

どうしたものかと思ってとりあえず外に出た保は、

「時治様」

と声をかけられる。保は3年前に行方不明になった声をかけた朔人の主人、藤原時治とそっくりだったのだ。

実は未来人……とも言えず口ごもっている間に、保は記憶喪失だということに朔人に勝手にされてしまい、屋敷に連れ帰られれば当然のことながら時治の両親は息子が戻ってきたと大喜び。ますます本当のことは話せなくなる。

その中で一人冷やかな視線を向けるのが、時治の妹樹。実は彼女も未来人。しかも、テレパスの能力があり（そのままでは当局に目を付けられて研究所送りにされてしまうため）実の両親がこの時代に彼女を逃がしたのだった。

ちなみに、この樹ちゃん、ママはフランス系。何で過去の日本で違

和感なく生きてんねんって今ならツッコミ入れるところですが、当時
本当の樹ちゃんを流行病でなくしたばっかの藤原の両親はすんなり
と今の樹ちゃんを受け入れております（出たぞ、ご都合！）

ともかく、藤原時治として生きること余儀なくされた保。で、こ
の樹ちゃんに惚れちゃいます。樹ちゃんの方も唯一自分の本当のこ
とを知る（そりゃ、見るからに日本人離れた顔だもん、仕事柄保
君、ピンきて探りを入れ、樹ちゃんも本当のこと話しちゃいます）
保に惹かれていき、二人は深い仲に……（兄妹なのに……）

樹ちゃんは保君との間に二人の子供を儲け他界（おいおい、やっぱ
殺したか）……保が完全に平安人となってしまうた20年後になっ
て、保のところに、彼の弟靖と保のかつての恋人が現れます。しか
し、靖の方も探し当てたのは約二年後で、元恋人は今靖を……っ
て状態。

「二年足らずなんだから修復できる」

と、事故時点に戻って救出するという靖に、頭を振る保。それを見
て時間法の規定を読み上げる弟に向かつて彼は、

「僕はもうこの時代を生きてしまったんだ。今更僕にもう一度人生
をやり直せと言うのか？ それに、妻は私がいなかったこととして
生きるだけでいい。でも、子供たちは……靖は義時を瑞樹を闇に葬
り去れとでも言うのか？」

と言い、頑として元の時代に帰ることを頑なに拒み、靖も保は事故
の際即死状態で救出はできなかつたと当局に報告する……

書いててすごく楽しかったですけど、ものすごく都合炸裂な作品
でした。

思えばこの頃受験……現実逃避したかったのが筆に出たかも。

ちなみに「赤い涙」の笹川樹ちゃんの名はこの話から名前だけもらいました。「赤い涙」のリメイク時にこの物語のことを改めて思い出して、これだけは先にここに記事にすべえとは思ってたんですけどね。

一番恥ずかしくないかも知れません。

過去の恥は書き捨てと言いながら、この墓地送りシリーズ結構恥ずかしいんですが、その中では一番今のテイストに近くてマシな作品です。

「目のない鶴」

6歳まで一人っ子だった初音に弟陽二が生まれた。手のかかる小さな命に周囲は夢中で、自分のことなんかちつとも気にかけてくれなくなつた。

『陽二なんかいなくなればいい!』

そう思つた矢先、その弟の目が見えていない事がわかる。

自分が陽二を呪つたせいだ……そう思つた初音は、弟の目のなることを決意する。

やがて5歳になつた陽二は初音の折つた折り鶴に興味を示す。初音は折り方を教えてやると、器用な陽二はちゃんと折り鶴を完成させた。一枚の紙が触れる立体になるのが面白く、陽二は初音に折り紙の本を読んで解説してもらい、どんどんと作品を作っていく。

やがて陽二は創作折り紙の世界に。手触りを重視した類似希なる感性で作られた立体的な造形に、誰もが陽二の目が不自由であるとは信じられないとため息を漏らすほどの作品を仕上げるようになった。

そして、彼の初めての個展の初日、陽二は初音に一羽の折り鶴を手渡して言った。

「ねえちゃん、僕の鶴には目がないんだよ」

と……

驚く初音に陽二は続けて、

「この鶴は何色？」

と聞く。紙は全て色別に箱に分けて、箱に点字で印を色名を記してあるはずだから、本当は分かっているはずだ。初音は本当は青色なのに、わざと灰色だと言ってみる。

「僕は青色だと思ってたよ」

「なんだ、やっぱりちゃんと分かっているんじゃないの」

そう言った初音に、陽二は

「でも、それはねえちゃんがいつも色別に仕分けしてくれているから分かることなんだよ」

と返した。そして、

「でも、もうこれからは自分のこと考えて。今なら色分けしてくれるボランティアも頼めばきてくれるよ。ねえちゃんが自由になって、僕は僕の目で見ないと。僕の鶴はいつまでも飛べないんだ」

初音には何年もつきあっている恋人がいたが、陽二のことが気にかかって恋人のプロポーズを受けられずにいた。それを知った陽二の発言だった。

結婚式当日、初音は陽二お手製の折り紙で作られたブーケを手に夫と永遠の愛を誓い合った。

ほのぼのの姉弟愛。両親はどうしたの？ 墓地送りメモには記されてなかったけど、おそらく死んでたような……

私が繰り返し読んだお話

ブログのトラックバック企画の再掲です。

私の好きなお話というか、たぶん一番読んだらうおとぎ話は「アリババと40人の盗賊」

私が文字を読めるようになったのはたぶん3歳前。意味を認識していたかどうかは確かではありませんが、文字と音との合致はしていたようです。

まだ、そのころ4つ上の姉は幼稚園で、図書館なども付近になかったので、読む本と言えば親に買ってもらったこの本と、あと「マミイ」などの幼年雑誌が数冊だけ。

おそらく、読了回数は50回をゆうに超えるでしょう。もう、話の内容なんて全部覚えてるし、今でもあのアラビアンな挿絵までしっかり頭に残ってる。家族が音読すると、しっかりと続きのセリフを抑揚付けてそらで言っていましたからね。それが面白くて、姉も母も何度も私の前で読み聞かせするし。

それが、姉が小学校に入学して図書室の本を借りてこれるようになるまで続きました。そのうち複数冊借りられる本の必ず一冊は私のためだったりして……ねえね、ホントにありがとう。

ちなみに、このお話の元になった「千夜一夜物語」は、高校生になつてから読破しました。原典的には子供向けではない残酷描写など、R-15程度の物語ですから、中学校までは図書館にはありません

でしたので。

私の妄想体質の原点ともいえる作品かも知れません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9245x/>

神山 備の取扱説明書

2012年1月14日01時50分発行